

科目名	国際経済政策論特講	担当者	マエノ 前野 タカアキ 高章	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	近年の世界経済では、グローバルな貿易自由化が進められると同時に、地域統合への活発な動きも見せている。1990年代以降、企業や産業のグローバルな経済活動に伴い部品・コンポーネントなどの中間財の貿易が拡大し、グローバル・バリュー・チェーン（GVCs）が広域に発展してきている。そのような国際分業をより円滑に進めるために経済政策の果たすべき役割が近年特に重要となってきた。本講座は、国際分業構造の変化、企業の海外進出、地域経済の発展などの関連性に着目し、理論と実証の両面から国際経済政策を分析することを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 最新理論、通商政策の論点、実証分析手法を理解し、仮説の提起・検証のプロセスを熟知することを到達目標とする。グローバル化での経済政策（特に、通商政策）が各国経済と地域経済に与える影響を把握するために、国際経済と経済政策の理論的考察の知識を習得し、国際経済政策問題の理論的アプローチの変遷を理解する。</p> <p>【行動目標（SB0s）】 ミクロ経済の基礎理論と国際貿易理論を応用することができる。 生産活動のグローバル化と国際分業構造の変化を説明することができる。 通商政策と地域経済発展の関連性について把握することができる。 国際経済政策と地域経済統合との関わりについて分析することができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：経済学の基礎理論を学習する。 準備学修時間：12時間 準備学修項目：経済政策と企業の海外進出に関する基礎理論と基本課題を学習する。 準備学修時間：12時間 準備学修項目：伝統的貿易理論、新貿易理論と新々貿易理論を学習する。 準備学修時間：36時間</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 基礎理論の指導や質疑応答はオンラインでのインタラクティブな指導を行う。</p> <p>【学修方略（LS）】 基本教材リーディング、研究文献サーベイとレポート作成を基本的な学修方法とするが、個別指導には対面指導とソーシャルメディアを利用するオンラインで行う。</p>		
スケジュール	レポート提出には前期・後期ごとに期限が設けられており、提出期日はmanaba_folioならびに学事暦記載のとおり。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題レポートの内容を正しく理解しているかどうか、教材や参考図書を理解し、自分の意見でまとめられているかどうかを基準とする。
	平常評価	20%	レポートの事前準備や質疑応答などといったレポート作成のプロセスを基準とする。
履修者への要望	基本教材を理解したうえで、その他の関連文献などから国際経済政策に関する知識を修得することを心がけてください。また、レポート作成に関しては添削や質疑応答に関する十分な時間を確保するようにしてください。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 若杉隆平 教材名： 『国際経済学(第3版)』(岩波書店, 2009年) ISBN: 9784000266994 2,900円+税
	この教材は、まず国際経済に関するデータの把握から入り、国際経済学の基礎理論を概説し、そのうえで不完全競争下での新貿易理論を網羅して、完全競争下の貿易政策や不完全競争下の貿易政策を解説している。さらに、企業の異質性を国際貿易理論に取り込んだ「新々貿易理論」を紹介し、それをベースに海外直接投資やアウトソーシングなどといった国際貿易を分析する新たな視点を取りあげている。この教材は、理論的アプローチを踏まえて望ましい国際経済政策の在り方を考察するための基本教材として位置づけられる。
参考図書	木村福成『国際経済学入門』(日本評論社, 2000年) ISBN: 978-4535551282 3,200円+税 富浦英一『アウトソーシングの国際経済学』(日本評論社, 2014年) ISBN: 978-4535556911 3,200円+税 清田耕三・神事直人『実証から学ぶ国際経済』(有斐閣, 2017年) ISBN: 978-4641165175 2,800円+税
履修上のポイント	教材および参考図書を熟読し、国際貿易の基本理論の理解を心がけてください。具体的には、伝統的貿易理論のリカード・モデル、新古典派のヘクシャー＝オリーン・モデル、そして、新貿易理論や新々貿易理論までの国際貿易理論の基本的考え方について把握するようにしてください。
レポート課題 1	現在の国際貿易はどのようなパターンで行われているのか、貿易を行う国が国際分業を通じてどのようなメリットを得たのかについて論じなさい。 留意点: 上記の履修ポイントを押さえて、国際貿易の基礎的な理論の展開を踏まえ論理的にまとめるようにしてください。
レポート課題 2	自由貿易の推進は一国の経済成長にどのようなインパクトを与えるかを論じなさい。 留意点: 通商政策の理論、保護貿易の論拠を踏まえて、主体的な意見ではなく、具体例をあげながら論理的に結果を導くようにまとめてください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 馬田啓一・木村福成編著 教材名： 『通商戦略の論点－世界貿易の潮流を読む－』(文真堂, 2014年) ISBN: 9784830948220 2,600円+税
	この教材は、世界貿易と日本の通商戦略における諸問題を論点に取り上げ、その現状や問題点、課題についてまとめている。主な論点は、アジア太平洋の新たな通商秩序の構築に向けた日本の対応、日本が目指す通商立国のための条件、次世代型の通商政策における課題、といった三つの論点をまとめてあり、国際経済政策の現状と課題、将来的な在り方について考察するための基本教材として位置づけられる。
参考図書	馬田啓一, 木村福成編著『国際経済の論点』(文真堂, 2012年) ISBN: 978-4830947711 2,800円+税 渡邊頼純『GATT・WTO体制と日本－国際貿易の政治的構造』(北樹出版, 2012年) ISBN: 978-4779303371 2,500円+税 長谷川聰哲編『アジア太平洋地域のメガ市場統合』(中央大学出版部, 2017年) ISBN: 978-4805722633 2,600円+税
履修上のポイント	教材および参考図書を熟読し、日本の通商政策への取り組みと、通商政策における現在の課題や将来的な方向性について理解することを心がけてください。
レポート課題 1	通商政策の論点がWTOからメガFTAへと転換してきた背景についてまとめ、日本が新たな通商立国の道を目指すための条件について論じなさい。 留意点: WTO体制の機能の限界と変化について考え、なぜメガFTAという方向に向かっているかを日本の視点からまとめてください。
レポート課題 2	地域経済統合に向けた流れを踏まえ、日本が直面する次世代型の通商課題について論じなさい。 留意点: 資源・エネルギー問題や環境問題などといった具体例をあげ、通商政策における将来的な論点をまとめてください。